

2004年7月14日

会社名 株式会社 高島屋  
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治  
 コード番号 8233

## 2004年6月度 高島屋営業報告

- \* 本年6月1日をもって、立川店レストラン街の運営を東神開発(株)に移管しました。  
 \* 分社化した4店の売上を本年に含め、立川店の前年数値を調整した全18店計前年対比を**実質**数値として表記しております。

**百貨店事業概況**      本年    -13.6    **実質**    -6.5    (前年比%)

6月度は、日曜日の1日減や、台風による入店客数の減、クリアランスの立上りを7月1日(前年6/28スタート)に変更した影響により、衣料品を中心に低迷、月後半はセール前の買い控えも見受けられ、18店計実質前年比-6.5%と低調な結果となった。

店舗別概況								関西計	
	関西	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋	本年	実質
売上	-5.3	-6.3	-2.8	-8.9	-8.8	-9.1	-20.0	-6.0	
入店客数	-1.7	-8.2	-4.4	-2.2	-6.8	-5.7			

\* 大阪店には和歌山店・堺店、京都店には洛西店の売上を含む

関東									関東計	
	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋	本年	実質
売上	-3.7	-8.3	-9.5	1.8	-13.5	-11.7	-7.7	-4.5	-9.8	-6.7
入店客数	12.0	-4.5	-6.7	4.4	-0.7	-7.2	-0.8	-2.5		

\* 横浜店には港南台店の売上を含む

\* 立川店:実質-10.8%

<店舗別> 玉川店では、6月2日にグランドフロアをリニューアルオープン。拡充した婦人靴(前年比+57.2%)や化粧品(同+11.2%)が好調に推移し前年を上回ったが、その他店舗は、前年実施のカード催の組替えも影響し前年を下回った。

広域事業概況	法人	通販	広域計
	-14.6	-12.3	-13.5

<広域事業> 法人事業は、前年実績の大型物件の計上月変更により前年を下回ったが、通信販売事業は、カワガ夏企画(5/31発行)の商品構成変更により、強化した婦人服(前年比+3.7%)は前年を上回ったが、リビング用品の低迷により前年を下回った。

総計	本年	実質
	-13.6	-7.0

### 商品別概況 (百貨店協会商品区分)

	本年	実質		本年	実質		本年	実質
紳士服・用品	-20.9	-15.0	身のまわり品	-10.6	-5.5	食料品	-4.5	2.7
婦人服・用品	-20.3	-12.9				食堂・喫茶	-10.1	4.0
子供服・用品	-20.3	-14.1	家具	-20.4	-15.3	雑貨	-12.2	-5.6
その他衣料品	-19.6	-9.9	家電	-16.8	-13.6	サービス	5.9	9.2
衣料品計	-20.4	-13.3	その他	-18.5	-14.1	その他	-18.9	-15.3
			家庭用品計	-18.9	-14.4	合計	-13.6	-7.0

<店頭商品別> 関西地区ではお中元の「早期割引キャンペーン」の実施、関東地区でも「早期承り会」が好調に推移し、食料品(前年比+3.8%)は前年実績を上回ったが、特選衣料雑貨(同-2.8%)は、リニューアル後の東京店(同+14.0%)、玉川店(前年比+22.9%)は好調に推移したが前年には及ばず、紳士服(同-14.0%)、婦人服(同-14.8%)、婦人雑貨(同-5.3%)、ハビィー・子供(同-12.4%)、リビング(同-11.4%)等も前年を下回った。